

塞の神 道祖神



戸倉野の賽の神 顔が置き換えられている

賽の神 道祖神は、村内と村外の境界や道の辻に祀られる石造物である。しかし、この地域の賽の神は、子どもの守護神としての傾向が強く、ドンド焼きの際、子どもたちが晴天を願い、石で賽の神の頭を打ち付ける風習もある。



姫の湯の賽の神付近の水利用

「塞ぐ神」の名の通り、災厄が村を訪れることを防ぐ役割も持つため、水脈の境界を示すこともある。



姫の湯の賽の神と馬頭観音

まさに「うぶすなの水文」を体現する賽の神がどのような姿で佇んでいるのかを調査するため、「神社寺院誌 宗教石仏編」に記載されていた上地区の石造物を巡った。風習により削られた賽の神は、人の造形に、人為による破壊と風化が加わり、この土地に確かに息づく信仰の姿を現していた。



ここに石造物があるかと思ったが、消火栓だった。

2日間かけ、手書きの地図を頼りに石造物を探していると、身体的な感覚として「ここに石造物がいるかもしれない」という気配を感じるようになる。その気配を表象するためには、この地を歩き続ける必要がある。



貴僧坊の賽の神 もはや原型を留めていない



貴僧坊の馬頭観音 馬の頭の彫り物がある



貴僧坊のワサビ田